逢坂誠二『町長室日記』を読む

この本は北海道ニセコ町長・逢坂誠二氏によるもので、町長室から自治体改革の実態を知ることができる。逢坂町長の発言やニセコ町のホームページには注目してきたが、この本はたまたま書店で見つけたものである。

本の表紙には「今日言い本を見つけた。これを読めば、ニセコがわかる、北海道がわかる、日本がわかる、世界がわかるはずだ」と書かれている。まさに本書、逢坂町長の眼を言い当てている。

本書をくどくど紹介するよりも、「はじめに」に書かれていることから核心が明らかになる。「ニセコ町では、---求められているから情報を公開するという『狭義の情報公開』ではなく、自治を機能させるために必要な情報は、求められるか否かに関係なく提供し、必要があれば誰でも簡単に手に入れることができる『情報共有』の考え方を実践しています」「ニセコ町に自治があるのと同じように、職場としてのニセコ町役場にも自治が存在します。この職場の自治を動かすための情報が必要になるのは当然なことです」

「そこでニセコ町役場では、---コミュニケーションを多くとることに心がけ、職員相互の情報共有に努めています。---そこで考え出されたのが、『町長室日記』なるものです」「この町長室日記には、職員が役場の種々の活動にまつわる情報を共有するのが大きな目的ですが、それ以外にもいくつかの意味があります。それは職員に、自分と普段は関係のない世界に目を向けてもらう切っ掛けをつくることです」「私は、こうした弊害を孕んでいる同質の組織の中に、普段は吹かない風を吹き込みたいのです」

こけだけでも鋭い指摘ばかりだ。改革を推進する町長から目が離せない。

(6月19日　記)